

第 1 回小千谷市総合教育会議 会議録

日 時	令和 7 年 1 月 20 日（月） 13:30～14:35	会 場	市役所 大会議室
出席者	・宮崎市長 ・松井教育長 （教育委員） ・吉井委員 ・高野委員 ・竹内委員 ・福島委員 （6名）		
欠席者	なし （0名）		
事務局	（教育・保育課）・山本課長 ・林課長補佐 ・上村管理指導主事 ・小林管理指導主事 ・岩渕係長 （企画政策課）・岡元課長 ・増川課長補佐 ・佐藤係長 ・和田主査 （9名）		
傍聴者	なし		
議 題	小千谷市の不登校対策について		

発 言 者	発 言 内 容
	1 開 会
宮 崎 市 長	2 あいさつ 本日は「小千谷市の不登校対策について」を議題とし、小千谷市の現状を共有するとともに、すべての子どもたちに学びの場を保障するための対策について意見交換をしたいと考えております。 先日報道発表したとおり、小千谷市では「学びの多様化学校」の開校に取り組むこととしました。その内容についても後ほど事務局から説明があるかと思っておりますので、皆様から忌憚のないご意見をお願いいたします。
事 務 局	ここからは、本会議の議長である宮崎市長より進行をお願いしたい。
宮 崎 市 長	3 議 題 議題について、事務局から説明をお願いします。
事 務 局	小千谷市の不登校対策、不登校に関するアンケート結果共有、学びの多様化学校の基本構想について説明
宮 崎 市 長	ただいまの説明について、教育委員の皆さん一人ずつ順番にお考えがあればお聞かせいただきたい。
竹 内 委 員	ご説明ありがとうございます。過去最多の不登校児童生徒数ということで、厳しい人数であると認識をさせていただきました。そのような現状に関して主観で付け加えさせていただきます。 まず、多様化による生活環境の変化が特に顕著だと感じます。Z世代とされている人たちはネットネイティブとも言われますが、インターネット環境というのは便利な部分がある一方で、その弊害の大きさも取沙汰されています。それに対して、子どもたちが被害を受けているというか、その環境に飲み込まれている部分がすごく大きいというのが一つ目の要因として感じる部分でございます。 また、学校対応について、教育委員として各学校に行って、座談会という形で教職員の皆様、校長先生や教頭先生をまじえてお話を聞かせてもらった

	<p>中で、各学校人手不足が大きな問題になっています。学校によってはスクールカウンセラーやソーシャルワーカーを配置するなど、準備をしているにも関わらず、業務の過多になっており、その分、子どもに注力できない環境となっているのは多くの学校に共通した問題だと思います。</p> <p>また、現在の物価高など、子どもの家庭自体が苦しい状況になっており、普通に生活をすることや、経済活動への不安を抱えている親が増えているのは耳にするところです。会社を運営する上で、従業員をどのように救済していくかという大きな問題に取りかかっており、本当に足元ですけれども、自分たちの守れる人たちはそうやって救済して行って、その家族を守っていくところから始める必要があるのかなと最近感じています。今、三つぐらい申し上げましたが、悪い環境になっていくのが否めない状況でどうしていくかというところですが、今年の9月末に飛騨高山の学びの多様化学校「にじ色」への視察に同行させていただき、その現状を把握させていただきました。非常にいい取り組みで、形ができてゴールではなく、子どものフェーズに合わせて、段階を踏んで取り組みされているという点がよい点だと感じました。いわゆる本当に家から出られない不登校児等が行く場面と、そこから脱却して自己成長しながら環境に救済してもらいながら、その次のフェーズに行くとか、段階を踏んでいるというのは悩んでいる子供たち並びにその親御さんのご両親に関しても助けになる取り組みではないかと思えますし、実際に運用されている形があるので、そこを見させてもらったのは本当に刺激になりました。それを踏まえた上で小千谷市がそういう取り組みを始める、そのような計画が立っていること自体が素晴らしいと思います。小千谷市の人口減少に関してもこのような取り組みをしたことがフックになるなど、他の市町村に負けない形を作るというのは必ず進めた方がいいと、実際に見て思った次第です。</p> <p>以上、主観となりますが、この取り組みに関しては教育委員として協力させていただきたいと思っていますのでよろしくをお願いします。</p>
高野委員	<p>はい。高野と申します。よろしくお願ひいたします。多様化学校が設立されるという話題が公になって以降、私自身の耳にはそれをとても歓迎している声がたくさん聞こえますので、きっと保護者の中にもそのような場を求めている方が多いのだろうということを感じています。竹内さんがおっしゃったことと重なりますが、小千谷市内にもマイルームをはじめ、お子さんたちを支援する教育の場がありますし、これから多様化学校もできていきますけれど、どこの施設がどういった状況にあるお子さんを対象とするのか、一番サポートしやすい施設なのかということがある程度示されると、保護者の皆さんも子ども本人も、今は自分がこういう状況でここを利用して、次の希望、目標ができた時にはこういったことがあってということが見えて安心できるかなと感じました。今、自宅から出ることが難しいという方がいらっしゃる。その方にはこういった機関がお手伝いします。さらに学びたい意欲が出てきた時には多様化学校というところでこういった時間数で学べます。さらに人との関わりを持ちたいという時には、本校への関わりもできます。というようなことが示されるといいなと感じました。それは飛</p>

	<p>驒に視察も行った時にも同じように感じたことでした。</p> <p>多様化学校ができることがきっかけで、自宅以外にも保護者の方とご本人が安心していただける場所ができるということが、皆さんが一步進んでいくきっかけになるといいなというふうに思いました。以上です。</p>
福 島 委 員	<p>昨年10月から教育委員としてお世話になっておりますので、昨年の視察というものを私は存じ上げないのですが、お二人がおっしゃったように、小千谷市が他の市町村に先駆けて、このような取り組み、それから環境づくりをされるために動いているということは本当に素晴らしいことで、若いリーダーシップのある市長さんを非常に誇りに存じます。令和8年の4月からスタートということですが、そのような環境ができるにあたり、その職員といえますか、子どもたちを受け入れる人材というのが本当に大事になってくるなと思います。4月からそこに入ってくるお子さんや保護者は、非常に期待をして入学してくると思います。4月からスタートというより、それに向けての準備というか、具体的にこういうふうに進めていくとか、その準備というのが重要になってくるなというふうに考えています。知的な遅れがなくても、発達障害などがあって行動の方に問題があり、それが精神の方にも影響して学校に行けないというお子さんがアンケートを見ると多くいらっしゃいますので、そういう専門的な知識や柔軟な適切な対応する先生方がとても重要になるかなと思います。また、それに向けて何か私たちもお手伝いをさせていただくことについては、本当に一生懸命させていただきたいと考えております。</p>
吉 井 委 員	<p>学校現場で38年間勤務して、その後4年目という今の状況からの発言になることをまずはお許しください。学校にいと不登校になりかけている、あるいは、もう学校が嫌だという子どもが発生した時に、その初動といえますか、最初の接し方を間違ってしまうと、その後がとても大変になってしまうと感じます。うまくいった場合もあれば、申し訳なかったな、失敗してしまったなと思う経験の両方を持ちながら務めておりました。今回、小千谷市が学びの多様化学校をスタートするということをとても嬉しく感じているところです。スクールカウンセラーは配置するというふうに聞いていますが、そのスクールカウンセラーとつながるため、あるいはそのスクールカウンセラーと、また、もともと所属していた学校とつながるため、あるいは教育委員会とうまくつながるため、保護者の気持ちに寄り添うためということ考えると、もう少し広い立場のコーディネーター的な役割があるといいなと感じています。コーディネーターを一人配置するとかそういう考え方がいいのか、教育委員会、教育・保育課がその役割を担うのがいいのかは難しいところで、財政的な面もありますので、今は結論というか、希望は特にはないのですが、本当に困ってしまった、特にまだ混乱期にある保護者に対して、誰が接して寄り添ってあげるかがその後の、2年間3年間かかって回復期に入る子もいるので、長い付き合いになると思いますが、その人材というか立場を大事にいただけると、子どもも保護者もそしてもともと受け入れていた学校側も助かるのかなということが一番強く感じています。あとは竹内委員、高野委員もおっしゃったように、飛驒高山に視察に行</p>

	<p>って、私も大変勉強になりました。今回はある程度回復期にターゲットを絞ってスタートしていこうという方針だと聞いていますので、そこをターゲットにしながらも、私は混乱期、最初のところを、誰がうまく対応するかという初動のところを、その後どうやって誰が全体を見ていくかっていうところを、大事にさせていただきたいと考えています。以上です。</p>
宮崎市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>皆様方から本当に多岐にわたる視点で問題意識や、またさらに良くなるためのご提案をいただきました。竹内委員からもお話がありましたけど、今学校の現場も非常に人手不足が深刻であるということ。それによって適切なサポートがしにくいという部分も伺っております。あわせて、今、市民生活が非常に厳しいというのは、私も強く実感してまして、経済的な理由や、将来的な不安によって親自身が精神的に、明るい未来を描きづらい部分は、ちょっとボディブローのように地方を襲って、これは小千谷だけではありませんが、感じているところです。生活環境にはAIや、SNS等の普及によって多様化する環境に飲み込まれてきているというようなご指摘も、そのとおりだなと感じているところであります。</p> <p>高野委員からも、サードプレイスと言いますか、第三の居場所など心を安らげるような場所の発信方法の工夫というのはご提案いただいたとおりだと思います。すぐにでも改善できる要素があるのかなというふうに聞かせていただきました。</p> <p>また、福島委員からも多様化学校の人材が大切だということをご指摘いただきました。これはあれですね、県内初ということで、そういった部分に関しましてはだいぶ充実して環境を整えられるということでもよろしいですね。</p>
松井教育長	<p>一応、県には要望して、県も頑張ってくれると言っていますが、職員の配置数というのは、ある程度のクラス数によって決まりますので、子供の人数が一クラスどれぐらいかという中で、また、何クラスあるかによって配置数が決まります。それに少し加配をつけていただけていると思っています。分校だと教頭先生がつかますし、先日は養教がつくといいですねと県と話をしました。実際に配置されるかどうかはわかりませんが、県も国に強く要望すると言ってくれています。国も県もモデル事業のような形で、力を入れたいと言ってくれています。実際は子どもの人数、クラス数によって、養教の配置は難しいなどとなることはあると思っております。</p>
宮崎市長	<p>ありがとうございます。また、福島委員はじめ、吉井委員からも、プラスアルファのコーディネート機能といいますか、重要性をご提案いただきました。混乱期についての話もありましたが、私もそのような現場をずっと見てきたというか、私自身もいろいろ経験してきた部分もありまして、最初の厳しい時に、いかに適切なサポートができるかというのは極めて重要だなと思いつながら聞かせていただきました。</p> <p>今、皆様方から様々なご提案等いただきましたが、それぞれ委員さんから出てきたご提案等を踏まえて、また皆様方から所感等もありましたら、ぜひお聞かせいただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。</p>

松井教育長	<p>実は昨年从不登校の保護者の会（スマイル親の会）を立ち上げて、今年2年目に入りました。昨年から出ている方々はすごく喜んでくださっていますが、残念ながら、本当に出てきていただきたい保護者の方からなかなか出ていただけません。親の会に去年から出ている方は、すごく変わってきて、親が明るく元気になったら子どもがちょっと元気になってきたなど、非常にいい話を聞くんですけども、今ほど言った本当に引きこもっている、経済も含めて本当に厳しい家庭の方から出てきていただけません。案内は必ず出すのですが、一歩がなかなか出ません。来てみるとみんな仲間ができて、大体1時間半とか2時間の時間を過ぎても終わらずに、更に玄関で3、4人が30分立ち話をしています。気持ちがすごく楽になったという声も聞かれ、同じ悩みを持つ方々のすごくいい会になっています。出てきた方々はその意義もわかるし、気持ちも楽になる、先輩保護者もアドバイスしてくださるのですが、そこになかなか一歩来られない、本当に困って引きこもっている方の親がどうやったらその親の会に来ていただけるかなというところが、一つの悩みです。</p> <p>親の会で多様化学校の話をしたら、みんな喜んでくださいました。うちの子はそこに行けるかどうか未定だけど、なんとか行かしてあげたいという方もいて、皆さん拍手をして喜んでいました。出てくる方々はだんだん親が元気になるので、少しずつ良い方向が見えるのですが、ここに来られない方がたくさんいます。その勧誘方法を、無理して引っ張るわけにもいかないので今私は悩んでいます。それが一つ目です。</p> <p>もう一つは、先ほどの先生方の件です。実は制度をつくってもやはり「教育は人なり」で、その担当してくださる先生によって大きく違いが出てくるかなという心配があります。来年度、令和8年度の4月に開校する前に、実は公募制を取ろうかと思っていて、結局、教育はいくら制度を作っても、その先生方が威圧的だったら全然ダメなので、ここは一つの肝になるところだと思います。</p> <p>もう一つ、私も思うのは、多分令和8年4月からしても、最初はそんなにみんなが来るわけではないと思います。だんだんと「あそこに行くといいよ」というのが広がって増えていくと思っています。ただ、最初はなかなか難しいと思う。やはり不登校の子も保護者も少し警戒すると思います。行けるかどうかという不安もあるし、学校ですのでいくら楽しい内容を組んだとしても、少し足が重くなると難しいと思う。「あそこに行く大丈夫だよ」ということを実際に聞いて安心することにより、どんどん増えていく。実は、総合支援学校ができた10年前は、スタートした時は29人でした。今56人です。つまり倍になっています。この10年で支援学校のよさが広がり、今は約2倍です。だからおそらく多様化学校も徐々に徐々に増えていくのだろうなというふうに思っているので、それを先生方が子どもたち一人一人にいかに寄り添って、子どもの心をしっかり受け止められるかというのがポイントですので、ここはまた学びながら、また、公募しながら取り組んでいきたいと思っています。</p>
宮崎市長	はい、ありがとうございます。皆さんの方からいろいろとフリートークで何

	かあれば是非。
吉井委員	教育長からの丁寧な説明ありがとうございます。公募制ですということは、それは正式な教員ですか？
松井教育長	正式な教員です。公募制は全部正式な教員を公募します。
吉井委員	プラスアルファ例えば小千谷市としてサポートするスタッフとか、そういうのは？
松井教育長	一人は確実に。今、スクールカウンセラーに、公認心理士の資格を持ってらっしゃって、保護者や子どもの対応をしている方がいますが、周囲やその学校からも小千谷にとって貴重な人材だと言われています。その方に直接お話ししたら、ぜひやらせていただきたいというお言葉をいただきました。この方から準備に入っていただこうと思っています。この方と話したら、やはりいかにその担任担当の先生が大事だと言っていました。プラス、自分は子供のカウンセラーだけじゃなくて、クラスづくりからやりたいと言っていた。そういう方が入る予定です。
高野委員	先ほどスマイルの会のお話ですけれども、本当にそうだなと思っておりますが、その子どもにとって家庭っていうか、保護者の安定感っていうか、そういうところが一番大事だろうなと思うのですが、保護者の方が苦しんでいらっしゃるご家庭にどういうふうに関われるのかなという、難しいけれど、そこなのだろうなと思いました。
松井教育長	去年から来ている方は必ず今年も来ていますし、本人が「私の気持ちが変わったら、子供は本当になにか変わりました」って言ってくださる方がいて、そういうことがもっと他の人にも伝わるといいなと思うのですが、そういう方々が来てくださるといいんですけどというのも悩み。
宮崎市長	難しいところで親の悩みを適切にサポートしてくださる方がついてくれると、すごくその家庭は良くなるのですが、ちょっと違った助言が入る場合も時にはあって、そうすると違う方向に行ってしまうなど、正しい情報というか、ケアの仕方がもう少しこう広く薄く広がるような取り組みは重要だなというのは感じています。これはまた、市としてはそのサポートのあり方というか、初動の混乱期の対応、親の対応のあり方っていうのは、こう情報をうまくシェアができるといいのかなという感じがします。
竹内委員	多様化学校については、まず、人材を確保できるということは、すごくいいなと思いました。やっぱりキャリアがある方を引っ張ってこられるっていうのはスタートとしては非常に期待できると思います。いわゆるスモールスタートというか、小さいところから始めて、最初は実際に募集しても来ないかもしれませんが、この状況において、やはり進まない、とにかくトライアルしていかないと、悪くなる一方だと思います。それは恐らく、市長がおっしゃるところの挑戦をするという部分だと思うし、我々民間企業の経営者も十分そこをわかっている中で、停滞することは本当はないと思っていますので、やはり踏み込んでですね、途中で状況が変わったら、またそこで朝令暮改まで行かなくても方針変えたりとかしながらやっていくのがいいと思いますので、すぐ結果を見ずに、経過をたどりながら、変えていけばいいのではないかと思います。

松井教育長	<p>正直なところは市長といろいろ相談するときに、去年、一昨年くらいから保護者の会に呼ばれて参加したり、引きこもりの会に呼んでいただいて参加したりしている中で、私はもうこの現状を見るとなんとかしないとダメだと感じました。国も県にせめて多様化学校を1個か2個みたいな話がある中で、私もどうだろうかと言った時、市長が挑戦しなければ何も生まれないと言って後押ししていただきました。市長の後押しもあり、とにかくいろいろ見てやっぱり小千谷にとってはこれ必要だという、やむにやまれずに出たものなのですが、今言ったように本当に手探りなのでどうなるかわかりませんが、とにかく挑戦しなかったら何も変わらないというところから、やってみようというところですよ。</p> <p>でも今聞くと意外と保護者や地域の方はいい受け止めでしたよね。</p>
高野委員	<p>もちろん必要があるということもありますし、こういう声を拾って、実現してくださる小千谷ってすごいよねっていう言葉を聞きました。</p>
福島委員	<p>先ほど教育長から親が変わって、それがまた子供たちも伝わっていくという例を聞きましたが、その保護者の会に来てほしい保護者に対してどのように誘っていますか。</p>
松井教育長	<p>毎回何月何日に何回目をやりますと言って、学校にお願いして不登校傾向の、マイルーム利用者の方も含めて、配付しております。去年、中学3年生が3人いましたが、今年高校生になってまた来ていただきました。親も今年はまだ3～5人入ってくれたかな。だから全部で14、5人いるのですが、去年の3年生がOBとして来てくださって、中学校で全然登校できなかった子どもが高校に進学して今は毎日通っていますという話を聞くと安心します。</p>
福島委員	<p>例えばプリントで一度案内をもらっても、一步踏み出せない方っていらっしゃるの、人の口コミとか直接のお誘いとか、勧誘の仕方もまた大事だなと思った次第です。</p>
松井教育長	<p>参加者からのお誘いで入ってくださった方もいました。それがもう少し増えていくといいなと思っています。参加者がたくさんいれば小学生と中学生で分けるのが理想だと思っている。</p>
宮崎市長	<p>ありがとうございます。皆様方からいろいろご意見などいただきましたが、振り返りますと、私も市長就任前から引きこもりなど結構な方から相談を受けていました。就任してすぐ教育長に相談をさせていただいて、そういった会に教育長にも出ていただいたり、副市長にも出ていただいたり、課長も出て、もうトップ3が全員その会に代わる代わる出るという異例の懇談会をいろいろして働いて、そういう中で保護者も実はたくさん集まると、みんな一人一人違う視点というか、共通の解決策のイメージを持っている部分もあれば、それぞれ多様な解決策といいますか、考え方がるので、その最大公約数を実現していくということの難しさと必要性というのはずっと感じてきました。松井教育長をはじめ、事務局の皆さんから本当にご理解と力添えをいただいて、こうやってスタートできることを私も大変嬉しく思っているのですが、先ほど来からお話がある、親の心のゆとりというのが極めて重要だというふうに思っています。やはり学校の環境もそうですが、親</p>

	<p>が心のゆとりを持てるにはどのようなサポートができるかという部分が常に大事だなというのを感じますし、今、例えば大学生などと懇談する機会も多いのですが、社会人になった方、その時に自己肯定感と合わせて、自己効力感をいかにこう高めるか、私もやればできるのだというところが、小学校のうちから育むことができるといいなって思っていました。例えば、それなりの学歴があって、例えば、新潟県内では有数の大学を出て東京に行くけど、その先にはさらに優秀な方がたくさんいて、自己効力感がなくなって、心を病んで小千谷に帰ってきたいという相談も受けたりすることもあります。どこに行っても競争にさらされて、結局自己肯定感だけじゃなくて、自己効力感さえも失う中で小千谷に来ると、実はすごく自己効力感が高まると言って、その子は小千谷に来たりしているように、やればできるという小さな成功体験であり、自分の個性や特性が生かせるような多様化学校になるとすごく嬉しく思います。冒頭でお話ししたように、テストの勉強ができるかどうか、できないかもしれないけど、自然豊かな中でいろんなアイデアを、右脳をガンガン働かせて何かやるとか、職人的な能力がある人もいれば、古代の人はそうだったらしいですよ。それぞれの特徴は、全部その社会の中で必要とされる特徴として営まれていたということをお願いしますけど、なにか画一的な教育から一歩抜けた、一人一人の個性が本当に生きると、自己効力感が高められる多様化学校の運営ができれば大変嬉しく思っています。そしてまた保護者からも相談があるのが小学校で不登校傾向になる子は中学校でもどうしても不登校傾向になるということをお願いします。今は小学生の不登校児童の数少ないですけど、やっぱりそこをちゃんとケアすることが非常に重要だなというふうに思っていて、小学校も速やかに設置できたらということで、教育長と話をさせていただいて、令和8年が中学校で令和9年が小学校を目指していきたいというふうに思っているところです。時間が参りましたが、最後事務局の方、何かよろしいですか。所感等、よろしいでしょうか。はい、では本当に皆様方からいろんなご意見をいただきました。今後もまた運営にあたりまして、十分参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。それでは事務局にお返しいたします。</p>
事務局	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月5日に開催したおぢやしごと未来塾についてアンケート結果共有 ・「みんなの一步で、未来づくり大作戦」について協力依頼
	<p>5 閉会 (終了 16:10)</p>